

1

歌 論

無名抄 むみょうしょう

本書↓p. 4／解説書↓p. 4

問二

ア 理解する ① おっしやる

〈4点×2〉

問三

① ハ行下二段活用・加ふ ② マ行上一段活用・見る
③ ヤ行下二段活用・見ゆ ④ マ行四段活用・よむ

〈2点×4〉

問四

1 カ行下一段活用・命令形 2 ワ行下二段活用・連用形
3 ヤ行上二段活用・連用形 4 ナ行下二段活用・已然形

〈1点×4〉

問五

A 田鶴 B 竜

〈2点×2〉

問六

ア

〈8点〉

問七

雲に棲むことがあるだろうか、いや、ありはしない。

〈6点〉

問八

深く考えずに他人を非難する癖があるから。(20字)

〈12点〉

問二

ア 〓死ぬ ① 〓国王（天皇）

〈4点×2〉

問三

① 〓サ行変格活用・連用形 ② 〓ラ行変格活用・終止形

〈2点×3〉

③ 〓カ行変格活用・終止形

問四

1 〓あら 2 〓死ぬる 3 〓き 4 〓し

〈1点×4〉

問五

狩りをおやめになった。

〈6点〉

問六

I 〓自分が国王に献上される順番（13字）

〈8点×2〉

II 〓一日分の鹿が増える（9字）

問七

ウ

〈10点〉

問二

ア Ⅱ 数年来 ① Ⅱ 優美だ・上品だ

〈4点×2〉

問三

a Ⅱ ク活用・連体形 b Ⅱ ナリ活用・連用形

〈2点×4〉

c Ⅱ ク活用・連用形 d Ⅱ シク活用・終止形

問四

〈1点×4〉

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
なし	な	(く)から	くかり	し	きかる	けれ	かれ	ク活用
いみじ	いみ	(じく)じから	じくじかり	じ	じきかる	じけれ	じかれ	シク活用
きよらなり	きよら	なら	なり	なり	なる	なれ	(なれ)	ナリ活用
漫々たり	漫々	(たら)と	たり	たり	たる	(たれ)	(たれ)	タリ活用

問五

(1) Ⅱ 促音便・ウ音便

〈3点〉

(2) Ⅱ 客人としてやって来てかなり長くお話しになる。

〈5点〉

問六

ア

〈6点〉

問七

忠度が荒々しく使う扇の音。(13字)

〈8点〉

問八

ウ

〈8点〉

問二

㊦ ㉖ 参上する ㉗ 退出する

〈4点×2〉

問三

㉘ ㉙ 尊敬・連用形 ㉚ 打消意志・終止形

〈3点×2〉

問四

(1)

〈1点〉

ず	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
ざら	(ず)	ず	ず	ぬ	ね	○	未然形
ざり							
○							
ざる							
ざれ							
ざれ							

(2) 1 ㉛ 反実仮想 2 ㉜ 使役 3 ㉝ 使役

〈1点×3〉

問五

鬼につかまれたことによる恐怖を見せまいと我慢する様子。(27字)

〈12点〉

問六

ウ

〈8点〉

問七

イ

〈5点〉

問八

ア

〈7点〉

5

説話

今昔物語集
こんじゃくものがたりしゅう

本書↓p. 12／解説書↓p. 20

問二

ア 〓 徒歩で イ 〓 つまらない・無駄だ

〈4点×2〉

問三

① 〓 願望（希望） ② 〓 意志 ③ 〓 受身 ④ 〓 推量

〈2点×4〉

問四

1 〓 エ 2 〓 ク 3 〓 キ 4 〓 ウ

〈1点×4〉

問五

せ／むず／らむ

〈4点〉

問六

1 〓 女房の車から男のような大きな声がする（18字）

〈7点×2〉

問七

2 〓 乗っている人の正体が分からない（15字）
イ・エ

〈6点×2〉

問二

ア 〓 交際する ① 〓 格別である

〈4点×2〉

問三

a 〓 強意（確述）・終止形 b 〓 完了・連体形
c 〓 過去の原因推量・連体形

〈3点×3〉

問四

1 〓 思ったけれども 2 〓 討ったり討たれたり

〈1点×4〉

問五

3 〓 出家がしたい 4 〓 苦しいことよ

〈5点〉

問六

(1) 〓 もとの妻のもとにはめつたにも通わなくなってしまった。
(2) 〓 ア

〈8点〉

問七

夫がもとの妻と会ったことに対する憤り。(19字)
イ

〈8点〉

問二

ア 〓 一晚中 ① 〓 起こす

〈4点×2〉

問三

a 〓 完了(存続) b 〓 願望 c 〓 過去 d 〓 打消 e 〓 過去

〈1点×8〉

問四

f 〓 存続(完了) g 〓 完了 h 〓 詠嘆

〈5点×2〉

問五

① 〓 どんな人にも結婚させたく思っただけども、
② 〓 詠んだところ、
③ 〓 落ちぶれてしまい、輿や車に乗ることもできなくなったから。(28字)〈8点〉

問六

ウ 〓 落ちぶれてしまい、輿や車に乗ることもできなくなったから。(28字)〈8点〉

問七

エ 〓 落ちぶれてしまい、輿や車に乗ることもできなくなったから。(28字)〈8点〉

8

軍記物語

平治物語
へいじものがたり

本書↓p. 18／解説書↓p. 32

問二

ア 幼い ① はかない命

〈4点×2〉

問三

① 推量・連体形 ② 打消意志・終止形

〈3点×3〉

問四

1 やって来るらしい

〈1点×2〉

問五

2 不自由することはないだろう。
① どうして知らないはずがあるうか、いや、知っているはずだ。

〈5点×2〉

問六

③ ①とおしんでいるのだろう。
三人の孫が、何事もなければ長く生きていくであろうということ。(30字)

〈12点〉

問七

エ

〈9点〉

問二

ア 漢詩 ① 歌を詠んで贈る

〈4点×2〉

問三

ラ行変格活用 of 動詞「あり」の連体形の撥音便と、伝聞の助動詞「なり」の終止形

〈5点〉

問四

1 朝日がさすように見える (朝日がさすようだ)

〈1点×4〉

2 音がするように聞こえる (音がするようだ)

3 なるていくようだ

4 言うということだ

問五

頼み込むことができない

〈5点〉

問六

長恨歌を物語に書き直したものを借りるのに適当なつてを探して (29字)

〈8点〉

問七

エ

〈8点〉

問八

イ

〈12点〉

問二

ア 趣深い ① つらい

〈4点×2〉

問三

① 断定・終止形 ② 完了・連体形 ③ 存在・連体形

〈3点×3〉

問四

① 例示・連体形 ② 断定・連用形

〈1点×2〉

問五

① ② ③ ④
1 ②ウ 2 ②イ 3 ②ア 4 ②エ
同じようであった。

〈1点×4〉

問六

ア ② (2) (1) 空に浮かぶ月が暗い海に映っている様子。(19字)

〈10点〉

問二

ア 〓 その当時 ① 〓 亡くなる

〈4点×2〉

問三

a 〓 断定の助動詞「なり」連用形

〈3点×2〉

b 〓 完了の助動詞「ぬ」連用形

問四

1 〓 きつと長くなるだろう。

〈1点×3〉

2 〓 食ってしまった。

問五

3 〓 人が見てしまっているだろうか。

① 〓 くずれてしまったなあ

〈4点〉

③ 〓 どうして院の御所で詠むような歌にこの言葉を詠んでよいことがあろうか、いや、よくない。

〈6点〉

問六

帝や後の死を連想させる言葉が使われていること。(23字)

〈10点〉

問七

(1) ウ

〈8点〉

(2) イ

〈5点〉

問二

ア ㊦うわさ ㊦ ㊦だいたいよい・悪くはない

〈4点×2〉

問三

a ㊦ア・4 b ㊦エ・2

〈3点×2〉

問四

① ㊦法師になつてしまったのだろうか、

〈5点×2〉

④ ㊦突然身を隠してしまった。

問五

ウ

〈8点〉

問六

イ

〈6点〉

問七

夫が真意を告げないまま姿を消したことをひどく嘆く気持ち。(28字) 〈12点〉

問二

ア 物思いに沈んでぼんやりと見る ① 本当に

〈4点×2〉

問三

(1) ㉔ 撥音便・ざるなり ㉕ イ音便・あかし

〈2点×2〉

(2) ㉖ ウ ㉗ エ ㉘ イ

〈2点×3〉

問四

1 ㉙ エ 2 ㉚ ウ 3 ㉛ ア 4 ㉜ イ

〈1点×4〉

問五

私が行く先もわからず飛んで行って消えてしまったならば、あなた（妹）はどう思うだろうか。

〈5点〉

問六

ア

〈8点〉

問七

ウ

〈5点〉

問八

その場に留まって、萩の葉が返事をするまで笛を吹き続けること。（30字）

〈10点〉

問一

① ㊦ 当然 ㊧ 推定 ㊨ 意志 ㊩ 断定

〈5点×4〉

問二

(1) 「ぬ」 ㊦ 強意 「べく」 ㊩ 推量
 (2) ウ

〈5点×2〉

問三

思ったとおり女は鬼であつたよ。(15字)

〈10点〉

〈10点〉

問二

ア 〓 思いがけない

〈3点×2〉

問三

イ 〓 みすぼらしく姿を変える・地味な格好にする

〈2点×5〉

問四

① 〓 オ ② 〓 キ ③ 〓 シ ④ 〓 ア ⑤ 〓 コ

〈1点×4〉

問五

手足が本当に汚い尼で、涙を流して念仏を唱える尼がございます。

〈6点〉

問六

イ

〈8点〉

問七

仏道修行に一心に励むこと。(13字)

〈8点〉

問八

ウ

〈8点〉

問二

ア 〓 すぐに ① 〓 なぜ

〈4点×2〉

問三

a 〓 イ b 〓 ウ

〈3点×2〉

問四

ウ

〈6点〉

問五

トキが遠くまで飛んでから射落とした点。(19字)

〈10点〉

問六

③ 〓 射落としたならば、

〈5点×2〉

問七

エ ④ 〓 射落としたので、このように羽は傷まない。

〈10点〉

問二

㊦ 心が穏やかではない ① 驚きあきれる

〈4点×2〉

問三

㊦

〈3点〉

問四

A ㊦ウ B ㊦ア C ㊦エ

〈3点×3〉

問五

たとえ多く食べるとしても

〈5点〉

問六

僧が橘の実を惜しみ、少しも自分に与えてくれなかったこと。(28字)

〈10点〉

問七

ウ

〈7点〉

問八

イ・オ

〈4点×2〉

問二

ア 〓 数日 ① 〓 情けない・嘆かわしい

〈4点×2〉

問三

a 〓 つる／完了・連体形 b 〓 ん／推量・連体形

〈3点×2〉

問四

あらめ（あれ）

〈2点〉

問五

1 〓 A 2 〓 B 3 〓 A

〈1点×3〉

問六

証空律師が夢の内容に驚き恐れると思ったが、逆に喜んだから。（29字）

〈15点〉

問七

智者であるからこそ、この律師にまでも昇進したのだろうか、

〈6点〉

問八

エ

〈10点〉

問二

ア ㉡ かわいらしい ㉠ ㉡ (自然に) 思われる

〈4点×2〉

問三

1 ㉡ エ 2 ㉡ ウ 3 ㉡ オ 4 ㉡ ア

〈1点×4〉

問四

① ㉡ たいそうかわいらしい子どもまでできてしまったので、

〈6点×2〉

③ ㉡ 立ち止まることのできないことがあつて出る

問五

あまり会わない自分のことを忘れずに、たいそう慕ってくれる点。(30字)

〈12点〉

問六

(1) ㉡ 一人と火取

〈6点〉

(2) ㉡ ウ

〈8点〉

問二

ア 並一通りでない ① そのまま

〈4点×2〉

問三

1 長くあつてほしいと思うものだなあ

〈2点×3〉

2 ひっそりと隠れてしまうものよ。

3 いとしい人よ。

問四

ああ、(せめて) あのような身でさえありたいものだ。

〈6点〉

問五

ア

〈10点〉

問六

和歌を送ってきた主人はどのような風流人であるのかということ。

 (30字)
 〈12点〉

問七

ア

〈8点〉

21

歌物語

伊勢物語
いせものがたり

本書↓p. 44／解説書↓p. 84

問一

A 〓 男

B 〓 男

C 〓 女あるじ

〈2点×6〉

D 〓 男

E 〓 男

F 〓 女あるじ

問二

エ

〈8点〉

問三

夫が宮仕えに忙しく、妻である自分に誠実でなかったから。(27字)

〈15点〉

問四

もし主婦が酌をしないならば飲むまい。

〈7点〉

問五

ウ

〈8点〉

問二

ア Ⅱ いらつしやる ① Ⅱ 人目を避ける

〈4点×2〉

問三

いとど・いたく

〈3点〉

問四

1 Ⅱ げに・なるほど・本当に

〈2点×4〉

2 Ⅱ はなはだ・たいそう

3 Ⅱ なべて・総じて・おしなべて

4 Ⅱ やがて・そのまま

問五

① Ⅱ エ ② Ⅱ イ

〈8点×2〉

問六

弁の御息所の、返歌もしないうちに在中将が亡くなったことをたいそう

嘆く気持ち。(38字)

〈15点〉

問二

ア ㊦まねをする ㊩ ㊦つらく思う

〈4点×2〉

問三

ウ

〈3点〉

問四

1 ㊦逢坂の関（の番人）は決して（だまされて二人が逢うことを）許さないだろう。

〈1点×5〉

2 ㊦少しも違わなかった。

3 ㊦秋にはほとんど劣らないだろう。

4 ㊦毎回のようには詣でることができなかった。

5 ㊦月をご覧にならないでください。

問五

ア

〈5点〉

問六

決して拌みなさるな。

〈7点〉

問七

優婆崛多が、仏をまねた自分を見て感動し、拌んでしまったから。（30字）

〈12点〉

問八

エ

〈10点〉

問二

ア || いらっしやる イ || おっしやる

〈4点×2〉

問三

a || 尊敬／ウからア

〈2点×5〉

b || 尊敬／キからア

c || 謙譲／キからイ

d || 謙譲／カからイ

e || 謙譲／キからイ

問四

1 || 尊敬・惟喬の親王

〈1点×2〉

2 || 謙譲・帝

問五

天が与える位を受ける人こそ賢王と申し上げるが、

〈6点〉

問六

伯父の王位を奪ったうえ、その后を自分の后としてしまった行為。

(30字)

〈15点〉

問七

ア

〈9点〉

問二

ア 〓 先立たれる イ 〓 我慢する

〈4点×2〉

問三

a 〓 カ b 〓 ウ c 〓 カ d 〓 ウ e 〓 ウ f 〓 イ

〈1点×6〉

問四

 1 〓 見つけ申し上げたけれど
 2 〓 お尋ねになる

〈1点×4〉

3 〓 見まして

4 〓 見捨て申し上げることが

問五

① 種類 〓 謙譲 訳 〓 情けなく存じまして（思いまして・思い申し上げて）

〈5点×2〉

④ 種類 〓 尊敬 訳 〓 感動なさる

問六

物を盗む欲望にまかせて、灰までも食べるというつまらない心。（29字）

〈12点〉

問七

イ

〈10点〉

問二

ア 美しい ① 残念だ

〈4点×2〉

問三

a 謙讓・作者から帝

〈2点×3〉

b 尊敬・帝から帝

c 尊敬・作者から帝

問四

(1) 1 ム 2 ア 3 イ

〈1点×3〉

(2) 1 おやすみにならないで 2 申し上げよう。

〈1点×2〉

問五

これであろうと帝は思いになって、

〈5点〉

問六

エ

〈6点〉

問七

帝が自分を連れて行かず、元の姿を見たら帰ると言ったから。(28字)

〈12点〉

問八

ウ

〈8点〉

問二

ア 隔て心がない イ おつしやりかけてやめる

〈4点×2〉

問三

a 〓 ウ b 〓 イ c 〓 ア d 〓 ア

〈1点×4〉

問四

ア 作者 から 宮

〈1点×4〉

イ 作者 から 内の大臣

ウ 皇子 から かぐや姫

エ 皇子 から 翁

問五

(1) 頼り申し上げなさっているだろうことが気の毒だ。

〈5点〉

(2) エ

〈8点〉

問六

ウ

〈5点〉

問七

自分が玉鬘に恋心を抱いているということ。(20字)

〈10点〉

問八

エ

〈6点〉

問一

- a Ⅱ イ b Ⅱ ア c Ⅱ ア d Ⅱ イ e Ⅱ ア f Ⅱ ア

〈2点×6〉

問二

- A Ⅱ オからア B Ⅱ エからア

〈2点×2〉

問三

- ① Ⅱ 言い含めなさつて、

〈4点×2〉

- ② Ⅱ 派遣なさると、

問四

- ③ Ⅱ このような勅命を帝からいただいて聖のもとへ参上した旨を絵師が聖に申し上げたところ、

〈7点×2〉

- ⑤ Ⅱ 絵師たちは聖の姿を写し申し上げて、帝のもとへ（絵を）持つて参上したところ、

問五

- 大切な聖の像を書き損じるわけにはいかないから。

〈7点〉

問六

- イ

〈5点〉

30

歌物語

やま
もの
がたり
大和物語

本書↓p. 62
／解説書↓p. 120

問一

①
||
エ

②
||
イ

〈9点×2〉

問二

㉔

〈8点〉

問三

イ

〈12点〉

問四

ア

〈12点〉